

令和6年度 第5回富良野市社会教育委員会議

と き 令和7年3月13日(木) 18:00~

ところ 富良野市複合庁舎 会議室A

欠席委員：田畑委員、大橋委員

1. 委員長あいさつ

・反省のための反省になってはいけない。次年度に向けて事務局でどう反省や意見を活かしていくかが重要。

2. 報告事項

- ・3月6日(木) 地域学校協働活動推進委員・CS委員等合同研修会
「CAP おとなワークショップ」

事務局より開催について報告

3. 議 題

(1) 令和6年度富良野市社会教育事業の点検と評価について

○事務局から各事業集計結果の共有

V. 1-1-1

(遠藤副委員長)

・R5の反省が実践されてないのではないか。またハンドブックについて知らない人が多い等の意見もあるが。

(事務局)

・次年度にハンドブックに7か条を入れえて配布。ハンドブックに7か条入ってますよというのは周知しているが知らない方が多い。HPなどいろんなところで周知していく

V. 1-1-2

(遠藤副委員長)

・自主企画講座に頼りすぎないで行政としての目的が重要

V. 1-1-3

(天日委員長)

- ・研修会について、3月の開催は遅い2月が限度。来年は早い時期にできるようにお願いしたい。

V. 1-1-4

(田畑委員) ※当日欠席のため、事前に集約した意見

- ・メディアコントロールについて、世の中が、生成AIやロボットの進化・SNSの低年齢化などに追いついていないと感じます。ゲーム依存・ネット依存も・・・

法律で決めてくれれば学校現場としては楽なのですが、日本の政治は全然そういう意味では当てになりません。子ども達を守るためにメディアコントロールは本当に必要に感じます。

(岡本委員)

- ・起立性調節障がい、ゲーム依存が小中学生に多い。課金している人も多い。専門家が入って積極的にやっていかなければならない。学社融合としてしっかりやっていかなければならないと感じるし、やっていきたいと思う

V. 1-2-1

(天日委員長)

- ・市長の講評は全体のものであって一つ一つの学校に対して言うものではないと思っている。

(遠藤副委員長)

- ・アイデアが実現されることがモチベーション・意欲につながる。
- ・当日の配布資料で実現したものを配るのもいいのではないか”

V. 1-2-2

特に追加意見無し

V. 1-2-3

(遠藤副委員長)

- ・子どもの減少、去年の出生数80人位 町内会の子ども会に頼るのは難しい

(天日)

- ・地域で事業をやる場合に、子ども会ではなく地域の「こども」という対象で進めていく。

V. 1-2-4

(天日委員長)

- ・自主的に各児童館を回って話を聞いている。なかなかコミュニケーションが取れていないとの話がある。出来るだけ訪問して聞くという耳を持ってほしい

(事務局)

- ・社会教育だけでは難しい。学校教育の意識改革も必要。現場レベルの情報交換できる場を考えている。子どもが中心でそこに関わる大人が多様化する教育ニーズに対応するためには連携を図らなければならないと考えている。その仕組みを考える

(天日委員長)

- ・東小学校で懇話会を開いた。それが今後活かされ、波及されればいいなど。社会教育の職員が少ないはわかるが、現場に顔を出すことで生まれる信頼感もある。

V. 1-2-5

(遠藤副委員長)

- ・事業内容が見えてこないというのがネック。広く周知を。

V. 1-2-6

(天日委員長)

- ・青少年表というものがあまり知られていないように思える。広報等に載っている。依頼もかけているが苦慮しているのは事実。
- ・表彰式の参加者が少ない⇒身内の方が少ない。さっぱりしている。価値が無いと感じるのか、疑問を感じる。近隣ではやってないところが多いと聞くが、時代の流れということなのか。

(遠藤副委員長)

- ・地域においてボランティア等の地域貢献を頑張っている人の表彰は良いが、仕事の部分での表彰で優劣をつけるのは違うと思うので、そのような人を表彰する。

(中田委員)

- ・仕事ではなくそれ以上の方を探していくのは大変だと思う。青少年の団体が人数少なくなっている。

(遠藤副委員長)

- ・無理して毎年出す必要はないと考えるが。”

(事務局)

・受賞したことによるメリット、権威ある賞というところが弱い。もらったことで本人がどう思うのか、周りの人がどう思うのか、ロコミ力という部分も弱い。

(中田委員)

・受賞者を大々的に宣伝 PR することも良いかもしれない。その後を追って広報で紹介するとか。

VI. 1-1-1

(原委員)

・知らない人もいるようなので、周知を学生が頑張っている。どれだけ楽しいかを皆さんに PR 出来たら入ってくれると思うが。お年寄りばかりの大学かと思うかもしれないけど、お年寄りばかりではないということを PR したい。

(事務局)

・ノリが楽しい、集って楽しい、大学の外日常生活の中でも楽しく過ごしている⇒ロコミやPRも期待することもある

(天日委員長)

・人数の減少にはそこまで気にかけることなく、モチベーションも下がるので気にしないで活動してほしい”

(事務局)

・生きがい教室とことぶき大学は目的の違いもある為、なかなか一緒にはなりづらい。ことぶき大学としては、歌やフロアカーリングなど、一般のサークル活動の他に、大学という名がつくので様々な講座や学年やグループでの探究活動等、常に学び続けることを念頭に置きながら独自の活動として行っている。それがあ意味でハードルになっている部分はあるかもしれないが、こだわってやっていきたいと思っている。

VI. 1-1-2

特に追加意見無し

VI. 1-1-3

特に追加意見無し

VI. 1-1-4

特に追加意見無し

VI. 1-2-1

特に追加意見無し

VI. 1-2-3

(天日委員長)

・以前も図書館の活用の時に話が出たと思うが、図書館では飲み食いしているところもある。温かいコーヒーのような対応もありかもしれない。一考の価値があるのか。利用者のニーズはあるのか。

(図書館長)

・図書館独自では難しい。市内で飲食店やっている方が管理してやってくれる話があればできるかと思う。アンケートでもカフェスペースがあったらいいという意見も出ている。思いはあるが実践できるかどうか。2階にアイスの自販機を置いたが、今年度で撤去（維持には年間3000本の売り上げが必要）貸し出しも利用者も減少傾向にある中、数字（実績）がないと取り組むのは難しいかと思う。

(原委員)

・自販機は無くならないか？喫茶コーナーが絶対必要かどうかは疑問。

(図書館長)

・利用者数が増えれば業者にも依頼ができるが現状は難しいかと思う。

VI. 1-2-4

特に追加意見無し

VI. 1-2-5

特に追加意見無し

VII. 1-1-1

特に追加意見無し

VII. 1-1-2

(生涯学習C所長)

・(評価の中に記載のある)獅子舞保存会の統合は難しい。もともとなった地域が違うし形態が違う。目的としては獅子舞は神社に奉納するものなので、一緒に活動するものではない。イベントごとでは一緒に披露することはできるかもしれない。

(天日委員長)

・山部のは見たことないが富良野市内ではやらないのか？

(生涯学習C所長)

・山部獅子舞は山部地区のみで活動

・子ども太鼓を組織し子どもに太鼓を指導している。へそ祭りなどに叩いている。いろんなところでの協力はしている。

VII. 1-1-3

特に追加意見無し

VII. 1-2-1

(天日委員長)

・市内や沿線の小学校や中学校の利用状況等はいかがか

(生涯学習C所長)

・毎年小学校が来ている。沿線からの見学もある。近隣では富良野市にしか学芸員がない為。

VII. 1-2-2

(遠藤副委員長)

・土地改良区が同じ建物に入ったが、その後変わったことはあるか？

(生涯学習C所長)

・部屋を2部屋改修し研修室にしたが利用者には不便はかかっていると思う。改良区が入ったことで会議等での利用もある。”

(天日委員長)

・以前、利活用の答申の中に、看板の設置、施設を目立つようにしたり富良野以外へのPRもしたほうがよいの意見を入れたが、利用者数についてはその後どうか？

(生涯学習C所長)

・利用者数はコロナ以前の状況には回復している。客層はインバウンド増えている。毎日のように

来ている。冬は欧米、夏は東南アジアが目立つ。レンタカーで団体で見学している。来た方にはオリジナルのカードを渡して好評をいただいている。

・来館者だけがお客様でない、HPの閲覧者やレファレンスの方（こんなことを調べているんだけど・・・）の問合せ、こんな方々もお客様と捉えて対応している。

VII. 1-2-3

特に追加意見無し

VII. 1-2-4

特に追加意見無し

VII. 1-3-1

特に追加意見無し

4. その他

(1) 今後の主な日程

<教育振興課事業>

- 3月19日（水） 富良野市ことぶき大学卒業式
- 3月26日（水）
～28日（金） 富良野市子ども会リーダー研修会（後期）

<出張関係>

- 3月28日（金） 上川管内社会教育委員連絡協議会第2回理事会
(旭川市：天日委員長、佐竹 出席予定)

(天日委員長)

・冒頭にも話したが、1時間半話したがこのままではだめ。事務局の方で熟議して次年度目に見える成果を期待したい。上社連協のテコ入れもしていきたい。

以上